# 客船よもやまばなし

〈連載257〉

## シンガポールで高速旅客船を追う

大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授
池田　良穂

9月にマレーシアのジョホール・バルにあるマレーシア工科大学で開催された船舶流体力学の国際に参加することとなった。ジョホール・バルは、狭い海峡を挟んでシンガポールに隣接した都市で、日本からはシンガポールのチャンギー空港に飛んで、そこからバスかタクシーでわずか小一時間で着くことができる。海峡をまたぐ橋の真ん中が国境線で、橋の両端にシンガポールとマレーシアの入国審査所があり、タクシーだと乗ったまま出入国審査ができる。

出席する会議は月曜から始まるので、せっかくの機会を有効に使って、直前の週末に世界最大のハブ港になったシンガポール港で船を追うことにして、金曜深夜に羽田空港発のシンガポール行きの飛行機に搭乗した。翌朝、5時半にはシンガポールに到着。

今回は、シンガポールの客船ターミナルに入るクルーズ客船、インドネシアのバタムとを結ぶ高速旅客船、そして新しく建設された巨大なコンテナ船ターミナルに入る超大型コンテナ船を見ることにターゲットを絞り、セントーサ島の先端にある旧砲台の近くのリゾートホテルを宿泊に選んだ。このホテル選びでは、インターネットでシンガポールの地図をだして、このホテルからターゲットとする船が本当に見られるかを頭の中でシミュレーションした結果、ここが最適との結論となった。

チャンギー空港からタクシーで30分ほどでホテルに到着。まだ、朝も明けておらず真っ暗の中でのチェックインをしたが、部屋が使えるのは10時以降になりそうとのことで、使用できるようになり次第、携帯電話に電話をしてくれることとなった。ホテルのプールサイドで休んでいると、やがて、空が白み始めて、眼前には沖待ちのたくさんの貨物船の姿が見え始めた。中には白い船体の帆船の姿も見える。

シンガポールは赤道に近く、昼間と夜が半分半分だが、明るくなるのは午前7時過ぎで、暗くなるのも午後のほぼ同じ時間だ。8時を過ぎてすっかり明るくなったので、タクシーで新クルーズ客船ターミナルに向かった。ほぼ完成していて、入口には「もうすぐオープン」という電光掲示版が流れ

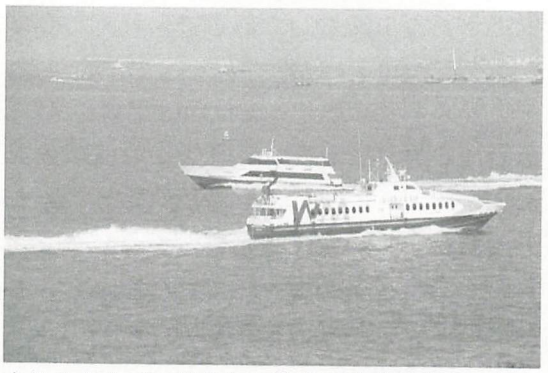
ていたものの、内部工事が続いているようで中には入れなかった。

続いて、クルーズターミナル兼インドネシア航路の国際フェリーターミナルのあるハーバーフロントに行ってみた。内部がかなりきれいに再整備されていて、スタークルーズ船の模型は残されていたが、RCIやコスタの宣伝はすべて撤去されていた。おそらく、この2社の大型船は新クルーズターミナルに移動するのであろう。前回来た時にはあったカジノ船の事務所や広告もすべて全くなくなっていた。カジノを規制していたシンガポールも陸上でのカジノが許可されるようになって、カジノ船の役割が終わったようだ。

新クルーズ客船ターミナル

インドネシア航路のフェリーターミナル

マラッカ海峡を挟んだ対岸のインドネシアのバタムとの間には、高速旅客船がほぼ10分おきに出ており、まさに海の新幹線と言える。これまでには、まだ見たことのないニューフェースの船もいて、なかなか楽しい。ただ、港の中では、完全にスピードを落としているから高速船らしいダイナミックな航走をする姿は見られない。向かいにあるセントーサ島との間には、ちょうど港の上に渡されたケーブルを使ったロープウェイがあり、この上からはクルーズターミナルやフェリーターミナルが一望できる。ここではケーブルカーと呼ばれていて、ひとつの観光名所となっているが、そのゴンドラの中からよい写真がとれる。この日には、残念ながら、クルーズ客船の姿はなかったが、バタム行きの高速旅客船が出入りするのを空から撮影することができた。



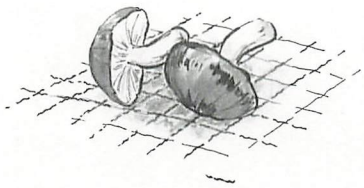
ホテルからインドネシア航路の高速旅客船が行きかう光景が見える

筆者が宿泊したセントーサ島のリゾートホテル

このケーブルカーでセントーサ島まで渡って、徒歩でホテルに戻ると、ちょうど部屋の準備ができていた。チェックイン時間まで入れてくれない日本のホテルと違って、シンガポールのホテルはかなり柔軟に対応をしてくれて、まさにグローバルスタンダードと言える。部屋に入ってベランダにでると、目の前のビーチのすぐ沖をバタム行きの高速旅客船が全力疾走していくではないか。まさに予想通りの光景にやや興奮してしまった。

次々と高速船は通るので、そのたびに写真をとっていたが、わずか航海時間が30分ほどの航路なのでなんども同じ船を通ることとなる。後でデジタル写真でチェックすると、延べ50隻がカメラに納められており、その写真に写る船の船名を確認した結果、全部で25隻の高速船に出会ったことになったことが分かった。丸１日の成果にしては上出来と言える。いずれ、日本クルーズ&フェリー学会のホームページや会誌でその雄姿をご紹介したいが、とりあえず数隻を本コラムにも掲載する。

翌朝、ベランダからマラッカ海峡を行き来する貨物船や、シンガポールのコンテナターミナルに入るコンテナ船のウォッチングをしていると、白い大型客船が入港してくるのが確認できた。スタークルーズの７万総トン型の「スーパースター・ビルゴ」だ。本船はシンガポール起点のショート定点定期クルーズに就航しているが、より安いRCIやコスタクルーズの大型クルーズ客船が進出して来て、やや苦戦中とも聞く。しかし、堂々とした同船が目の前を通り過ぎて入港していくのはまさに圧巻であった。

インドネシア航路の新鋭船「ウォーターフロント２」

入港する「スーパースター・ビルゴ」をホテルの庭からキャッチ!!